



5.12.12

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 健光園	代表者	古石 隆光
事業所名	健光園あらしやま 小規模多機能ホーム	管理者	山本 佳輝

法人・事業所の特徴
「生涯地域居住」を法人理念として、人と人がつながり、生涯その地域で住み続ける事が出来る社会を創る目的を掲げている。健光園あらしやま小規模多機能ホームは、京都市で初めての特養併設型の小規模事業所です。「あなたらしさと共に」という理念を掲げ、地域性や大規模事業所の特色をいかしたサービスや地域交流を実施したい。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	1人	1人	1人	0人	14人	0人	21人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	「わかりやすい」「評価しやすい。」表現を用いて、地域の方々も評価できる書面を作成する。	・運営推進会議を書面ではなく対面で開催していたことで、内容が分かりやすかった。 ・良いことも悪いこともしっかり報告している。	事業所によっては書面開催を継続しており、内容が伝わりにくいことが多い。	対面での会議を継続し、伝わりやすい文言を使い、伝え方の工夫を凝らして、地域の方々に取り組みを知って頂けるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	・施設に地域や家族の方々と書面等で情報交換出来るようなポストを設置する。 ・入館しやすい施設、事業所を目指し環境を整える。	・施設の感染対策として、入所施設は一定の制限を設けているが、在宅部門は入館フリーにしていることが地域に発信できていなかった。	・入館していないことで実情を見ないことで、課題が見えにくい。	・地域の方々やボランティアさんに入館頂ける機会を増やして、事業所を実際に見て頂ける機会を作る企画を実施する。
C. 事業所と地域のかかわり	・各学区の情報や包括からの情報をご利用者・ご家族に提供する。 ・地域の町内会に施設として加入を目指す。	・町内会の参加が進んでいない。 ・地域行事には可能な限り参加させていただいた。	・一般的に小規模多機能というサービスを知らない方が多く、同区内の地域によっては事業所の存在すらない地域もある。	・小規模多機能というサービスを地域の方々により知って頂くためにも、「サービスを発信できる機会」「知ってもらえる機会」を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・学区間での催し等の情報が共有出来るように、事業所が情報を取得し、ご利用者やご家族に知らせる取組みをはじめます。	・学区の秋祭りに一部ご利用者のご家族に参加いただけたが、催しもの事態が少ないこともあり、十分な発信はできなかった。	・介護相談を地域の方から直接事業所に問い合わせることは少なく、民生委員さんたちも包括支援センターへつなぐことが多い。	・地域ケア会議や運営推進会議で地域行事の情報収集し、ご利用者、ご家族に発信をしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・地域課題の相談等を事業所に相談がしやすいよう、受付方法を整える。またその件に関して、会議等で話し合える機会を設ける。	・現状として地域課題の解決に向けた取組みが運営推進会議内でできていない。	・会議自体を書面開催にしている事業所もある中で、対面式で開催していることに参加意義を感じているが、内容が専門的すぎる。	・運営推進会議を起点として、地域と事業所が協同し、地域課題解決に向けた議論や取組が出来るような体制を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	・施設の防災訓練予定や状況を発信する。コロナ禍が落ち着けば地域の防災訓練に地域の施設として参加出来る体制を整える。	・今年度は施設職員として嵐山学区の防災訓練に参加させていただいた。 ・地域の方と合同の防災訓練ができていない。	・学区の防災訓練には学区外の住民も参加できる。 ・福祉避難所としての機能役割が地域の方に発信・共有できていない。	・地域と施設が合同の防災訓練を開催する。 ・福祉避難所としての機能やフローチャートを整備し発信する。